

ゲスト講師が聴講生になってくださいました\(^▽^*)／

20014.9.24「ゆきさん講座①」感想（石黒秀喜：長寿社会開発センタ

ー）

- ① 自分は12月3日のゲストスピーカーなので、第1回目の様子を見た上で、準備を進める必要があると思ってWebを見ることにしました。
- ② ゆきさんが講座で流した二つのVTRとディペックス・ジャパンの若年認知症の語りのWebをみて感じたことを記します。
- ③ 自閉症の人も若年認知症の人も、高次脳機能に故障が生じているということは共通していると思います。
- ④ 私たちは、時間の流れの上に乗って、聞く・見ることにより入る情報と同時に過去のことを想起しながら、状況を認識し、理解し、判断して、言葉に表す・行動することで生活が営まれるわけです。②の三つの映像に共通しているのは、相手の話す内容は理解しているということ、しかし周りの人はそのことに気付かず「自閉症や認知症の人に聞いても意味がない」と思われていること、周りの人が病気のことは理解しようとしても、「本人がどう感じているかは本人しか分からない」という、もどかしさを抱えているということかなと感じました。
- ⑤ ディペックス・ジャパンのWebを見て、その後東田直樹さんの本を読んだ時に、相手の言うことは分かっているにも関わらず、上手く対処できないという高次脳機能の故障があるが故に、「何も分からない困った人」「恍惚の人」と決めつけられている mismatches は、本人と周りの人が双方ストレスを高めていく構造のようです。
- ⑥ クリスティーナさん、ジェームス・マキュロップさんは、初期の若年認知症の立場から、自己の内なる声を発信しており、認知症の人の抱える不都合の構造を教えてくださいました。東田直樹さんは、自閉症の立場から上手く周囲と協調できない構造を論理的に説明し、我々に教えてくれました、彼の場合は、キーボードがあれば見事に言語に表すことができることも教えてくれました。
- ⑦ 我々は、この当事者の抱える不都合の構造を理解して、彼らの頭の中に充満している苦悩、閉塞感を爆発させないように、プライドを実感できるように付き合うための知識、感性、そして余裕がなければいけないと改めて実感しました。
- ⑧ しかし、家族はまず余裕がなくストレスが充満しておりますので、家族支援も大きな課題です。本人と同等に家族の支援をしなければならない理屈になります。
- ⑨ 東田直樹さんのご家族や支援者はキーボードを使えることを見だし、根気強く付き合って潜在能力を開花させることができたことに感嘆しました。
- ⑩ 「その人らしさに寄り添う」という抽象的フレーズだけでは何ともならないことを訴えかけてくれた番組であり、それを作ってくれた方々は、優れた感性の下に映

像の持つ説得性を活かして、高次脳機能に故障を抱える人たちの不都合度の軽減に貢献した功績は歴史に残ると思います。